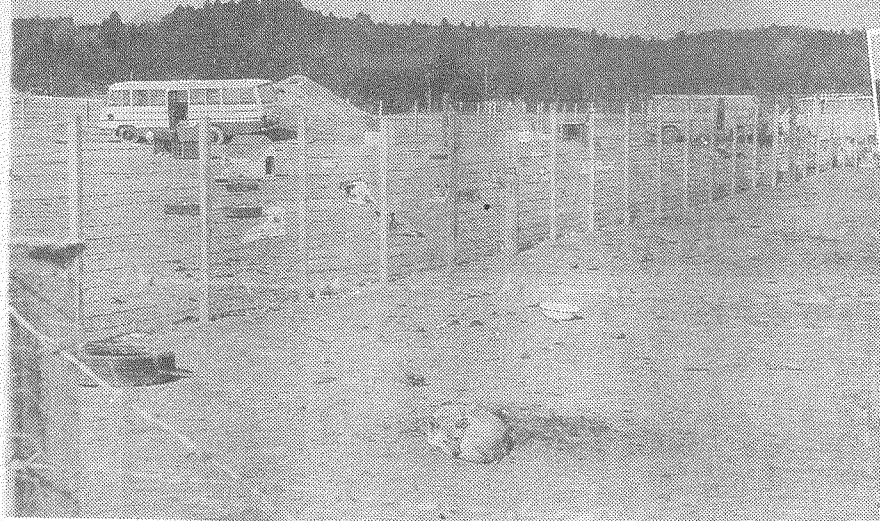




オスもメスも、成犬も子犬も一緒に約千500坪の土地に放し飼いにされている

それ以上に、何も知らずに1500坪の囲いの中で、愛情に飢えて泣く。犬たちの未来が、悲しすぎはしないだろうか。

もの悲しげな犬の泣き声を背に、直接、本多園長に会おうと試みた。

が、園長は2月7日(金)夜、何匹もの犬を連れての散歩中、大きな秋田犬にジャレつかれて、転倒、頭を強く打って近くの

病院へ、込まれてしまっていた。

いま、本多園長は市立旭中

犬の飼い方はすべて法律に違反してる

近所の富沢動物病院の院長はいう。

「昨年9月末には『犬パルボウイルス』にかかっていた犬を20匹ぐらい確認しています。10月のときには『ジステンバー』にかかっている犬を数匹確認しました」

『犬パルボウイルス』は、急性の伝染病で、感染すると死亡率は70%といわれている。『ジステンバー』は特に子犬のかかる熱性の伝染病で、感染するとほぼ90%死ぬ。

愛犬家であれば、何を聞いても、すぐに予防ワクチンを接種するし、伝染病にかかったら、ほかの犬と隔離し、医者治療を受けるはず。ところが、医者には診察は受けたものの、治療はしてもらっていない。

『しおさいの里』のボランティアの中心人物・Wさんに質問をぶつけると、

「注射のことは知らん。それは本多さんがやっている。犬が毎日死んでる? そりゃ、これだけたくさん犬がいるんだ、1匹や2匹は死ぬよ」

さらに、狂犬病の予防注射すら、受けていない。

中央病院に入院、加療中。

本誌の取材申し込みに、付き添っている本多園長の弟さ

んは、
「一切ノーコメント」
だった。

「テレビなどで600匹の犬を飼っている、と発言したのを聞いて、所轄の八日市場保健所が飼い犬登録と狂犬病の予防注射をするよう指導しました。すると、そんなこと、する必要はない! そんな金はない!」と一蹴されてしまいました。とにかく、犬を飼う最低限の約束事、『法律』を全く無視しています」(千葉県動物愛護センター業務課長・福永優さん)

予防注射は1匹2100円。600匹いれば、それだけで126万円かかる。(保健所と本誌記者が確認したところでは200匹前後だった)が……このほか、本多さん園長の本多さんは現在入院中だが……(P.R.ビデオより)

が「エサ代70万円、バスのガソリン代40万円、その他もろもろで1か月200万円もかかる」と、以前いったことがある。つまり、予防接種やワクチンを打つ余裕はないということだ。

ところが、実際にはかなりの月収になっているようだ。「毎週土・日には、犬を捨てないで!」と訴えて何十匹もの犬をバスに乗せてキャンペーン。1日の募金額は40万円にはなるようです(Aさん)

キャンペーンだけで月収320万円。さらに寄付金。

「郵送は月に1万円程度(Wさん)」というものの、銀行振り込みの寄付金は高額。

「1回に100万円振り込まれたことも、あったそうです」

少なく見積もっても月平均100万円くらいの寄付金が集まりトータル420万円。

これだけの収入があつて予防接種ができないはずがない。

「本多さんは犬を利用しているだけ」

という声も取材中、あちこちから聞こえる。

(以下次号)



今週は「35周年記念号」
タレントの流行らせた言葉

《僕は死にましゅ〜ん》昨年、話題を呼んだ恋愛ど根性ドラマ『101回目のプロポーズ』。フラレてもフラレても、驚異のねばり腰をみせた達郎役・武田鉄矢の必殺の名セリフ。